



ニュースレター

2022年（令和4年）1月31日 グリーフワークかがわ広報部

◆理事長メッセージ◆

新年によせて

喪失を生きる人々の声に導かれて

グリーフワークかがわは2019年にNPO法人取得10周年を迎え、昨年は、記念シンポジウムを開催することができました。これまで支えてくださったすべての方に心から感謝申し上げます。ひとつの節目を機に、グリーフワークかがわの歴史に触れておきたいと思います。

現在のロゴマークが決まったのは2005年、まだ市民グループとしての「グリーフワーク・かがわ」の時代でした。まず、私たちのミッションを明確に伝えるためにWe support Griefと表記することが決まりました。GRIEFのデザインは会員とデザイナーとの共同制作で、人と人とのつながりと独立を表しています。そして、色は青を選びました。

青という色について、日本画家の東山魁夷は「青は精神と孤独、憧憬と郷愁の色であり、悲哀と鎮静をあらわし、若い心の不安と動揺をつたえる」と述べています。東山の青を基調とした風景画はとても美しく静謐です。その東山が、青を最も美しく表現した画家としてピカソの名を挙げています。ピカソの「青の時代」は1901年から1904年頃、ピカソが20才～23才の時期です。作品は親友の自死が深く影響していると言われています。

あらためてその時代のピカソの絵を眺めてみると、病や貧困、死を主題とした絵が多い印象を受けます。抒情的で色合いは深い哀調を帯びています。しかし、そこに現れているのは絶望なのでしょうか。確かに、暗い影との境界がわからないほどの深い青墨色もありますが、緑に近い暖かみを帯びた色や、澄んだ水を連想させる色調もみられます。輝きを持つ群青もあります。東山が、青は明度や彩度の差や他の色との対照により「蒼茫とした無限の世界であることを感じる」と述べていることが腑に落ちていきます。

私たちがロゴマークの色として青を選択したのは、身近な人をなくした方のグループミーティングに参加された方の、相互の語りかけからヒントを得たものでした。悲嘆の過程において、涙を流すことは病的悲嘆ではなく自然な反応であること、私たちは自然のちからによって癒され、広い空は私たちに希望をくれること、そうした語りかけが心に残り、涙の色と空の色という青の選択になりました。色を研究した結果ではありませんでした。現場の声が導いてくれたといえるでしょう。青は、無数にある色の中でも、暗澹たる深い心の闇から、清々しい心のありようまでを表現できる数少ない色であると思います。

いつのころからか、気持ちが沈んだ時に「ブルーな気分になる」という表現が使われるようにな

りました。私たちがブルーな気分と言うとき、漆黒の闇に迷い込んでいるのではなく、いつかそこに差し込む光に希望を見出し前に進むことができる、そういう可能性を「ブルー」という言葉に込めているのではないかと想像します。こうしてみると「青」は、新しく生きる時間の始まりとも言えます。

グリーフワークについての理解が浸透し、互いに支え合える地域づくりに、近道はありません。目の前にいる人の語りに耳を傾け、その人の心の事情を理解しようとする真摯な態度を持ち続けること、そして自分の役割は何かと自問し、一つからでも実行していくこと。そういう不断の努力が心豊かな社会づくりの道だと思っています。「とにかく、現場に」と繰り返す緒方貞子さんの言葉が私たちの道を照らしています。

今年もグリーフワークかがわへのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

*引用文献：泉に聴く 東山魁夷著 講談社文芸文庫
ピカソ全集1 青の時代 講談社
聞き書 緒方貞子回顧録 野林健、納家政嗣編 岩波書店

2022年1月27日

認定NPO法人グリーフワークかがわ理事長
杉山洋子

◆2021年度グリーフワークかがわ公開セミナーのご案内◆

～暮らしのなかのグリーフワーク～

第44回 2022年2月20日（日）14：00～15：30（開場13：30）

テーマ 子どものグリーフワークとは
～今を生きる子どもたちと向き合って～

講師 認定NPO法人グリーフワークかがわ理事
認定グリーフカウンセラー 三嶋麻実

内容 日常の中で、なんらかの喪失を経験しているのは子どもたちも同じです。その一つ一つの経験を、大切にしてほしいと私は思います。依然として続くコロナ禍、様々な問題がみえてきました。実際、子どもたちの生活の場面でどのようなことが起きているのか紹介したいと思います。そして私たち大人にできることは何か、考えていきたいと思っています。

会場 丸亀町レッツカルチャールーム1
香川県高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町壺番街東館4階

参加費 500円（資料代）

事前予約不要です。

資料代は当日会場でお支払いください。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、マスク着用・消毒液の設置など香川県と関係団体のガイドラインに沿って実施します

※この事業は赤い羽根共同募金会の助成を受けて開催します。

2021 年度グリーフワークかがわ公開セミナー 暮らしのなかのグリーフワーク（第 43 回）開催記録

記録者： 梶浦麻琴

テーマ：一人ひとりの喪失とそれぞれのグリーフワーク～支える人になったり支えられる人になったり～

年月日	2022 年 1 月 16 日（日）14：00～15：30（開場 13:30～）
場 所	丸亀町レッツカルチャールーム 1 〒高松市丸亀町 1-1 高松丸亀町壺番街 東館 4 階
参加費	¥500
参加人数	12 名
主催	認定 NPO 法人グリーフワークかがわ
講師	杉山洋子（認定 NPO 法人グリーフワークかがわ 理事長）
内容	<p>はじめに、グリーフワークについて、小此木（1979）による対象喪失について説明されたうえで、対象喪失は、自分の大切な人との別れだけでなく、誇りや理想、住み慣れた環境、地位も含まれると話された。まず、参加者各々に生まれてから（0 歳）から現在までの自身の喪失体験について書き出してもらい、書き出して改めて気づいたことを振り返ってもらった。</p> <p>次に、対象喪失について、外的対象喪失と内的対象喪失があり、内的対象喪失を扱った。内的対象喪失の 1 つの指針になるものとして、E. エリクソンのライフサイクルの考え方に沿って説明された。我々が喪失の痛みを体験するために必要な安心感を抱くことができたり、想像力が養われることの基盤は乳幼児期に育まれる。成人期・壮年期になると、対象喪失において、自分の身体的な衰え、親の介護など、現実的で具体的な体験が数多く出てくる。親の介護には 3 つの内的対象喪失が含まれている。①親が実際に病気になったりして、実際に親の姿はあるものの、以前の親の姿と違ってくることによる喪失、②自身の親だけでなく、恩師や自分が生きていくモデルとしていた人も衰え、改めて自分自身の時間が有限であること、自身も老いてきていることを知る、③家族が介護を必要としたときに自分自身の生活や生き方を変えざるを得なくなることにより、自分の持っている時間の喪失がある。次の段階に進むためには、各段階で起きている課題をクリアしていくことである。</p> <p>参加者より次のような質問や意見が挙がった。喪失に伴って生じる怒りを抑えていくことで暴言や抑うつ、身体疾患として出てくるとの話があったが、その解決をしていくために誰かに話せないときはどうしたらいいか、誰かに話せないときに自分の中での怒りをどうしていけばいいか。他の参加者からも、自分自身もそうした状況にあり、お互いに心の中をさらけ出す相手や場の必要性について意見が述べられた。また、他にもレスパイトケア（高齢者や障害者を介護する家族の負担を軽くするために一時的に施設が預かる介護サービス）に対してグリーフケアの視点を持って支えていくことの大切さや、たくさんの人に集まれる場所</p>

<p>が福祉の中でも制度が弱いと感じているといった感想や意見が挙がった。</p> <p>最後に、赤い羽根共同募金の寄付の案内及びグリーンワークかがわの活動について説明を行い終了した。</p> <p>〈引用文献〉</p> <p>小此木啓吾著 対象喪失（中公新書）、矢吹弘子著 内的対象喪失（新興医学出版社）</p> <p>グリーンワークかがわ編 喪失と悲嘆のためのガイドブック～暮らしの中のグリーンワーク～</p>
--

※本セミナーは会場・参加者の消毒・検温・問診等の感染予防対策が取られた上で開催されました。

報 告

◆2022年1月9日 第167回理事会◆

《審議事項》

第1号議案 会計報告に関する事項

事務局担当理事より12月分の会計について報告があり了承された。

第2号議案 2021年度テーマ募金に関する事項

本年1月1日に開始したテーマ募金について経過報告がなされた。チラシとミニレターの発送作業は完了、ニュースレター、ホームページ、メールマガジンなどによる広報を行っている。会員への募金活動の協力も呼びかける。テーマ募金に関する事務作業ほか年間の予定については今後、マニュアル化していく方針で承認された。

第3号議案 GWK相談員資格制度施行細則（案）に関する事項

第166回理事会で承認された認定規則の別表を含む細則案について、杉山理事長より提案された案については継続審議とし、細則案の細部に関する訂正事項などは理事メールに提案し確認していくことで承認された。

第4号議案 香川県NPO基金の登録に関する事項

香川県NPO基金（正式名称「香川県特定非営利活動促進基金」）は、個人や企業など県民からの寄附金を原資として、NPO活動に対して補助金が交付される基金である。香川県政策部男女参画・県民活動課から案内があり、財政の基盤強化の一つとして登録について検討した。提出書類などについて確認した結果について報告があり、書類作成も可能であり申請要件も満たしていると考えられることが説明された。当該基金について登録の方針で作業をすすめることで承認された。

第5号議案 2021年度公開セミナーに関する事項

1月16日開催予定のセミナーについて、準備と当日の役割分担の確認、感染防止対策についても確認を行った。事務局に問合せのあった当日参加できない方への資料請求については、GWKニュースレターの配信を参考にしてほしいという返答をしていることも報告された。2月20日講師担当の三嶋理事からは杉山理事長のセミナーを参考に2月のセミナー当日の進行の参考にして計画したいとコメントがあった。チラシの余剰分については広報に活用すること、広報への協力も周知を行うことで承認された。

第6号議案 2021年度グリーンワーク週間とグリーンワーク・デー街頭キャンペーンに関する事項

昨年の活動の流れについて確認し、本年度の役割分担について検討した。グリーンワーク週間については例年通り、2022年3月11日～3月16日とする。街頭キャンペーンは3月13日（日）11時～12時（場所；高松駅北交差点前）とすることで承認された。各市町村首長及び報道機関送付及び街頭キャンペーン配布用のチラシはAIYAシステムに発注、ヴァイオレットリボン発注、封入カードケース、発送先確認（担当：上野）など準備を進めていく。リボン及びチラシの封入発送作業の準備会は2月10日（木）19時で、三嶋理事より会員に周知予定となった。チラシは毎年使用できる原稿となっているため印刷部数は昨年の200部から増量することを検討するためAIYAシステムに見積もりをとることで承認された。

第7号議案 事務局電話の機種変更に関する事項

Auでは3G回線の通話・通信サービスが終了する予定であり、今後も折り畳み式携帯の回線事情は縮小していくと考えられること、事務局への問い合わせの増加や返信の多様化（電話だけでなくショートメッセージ使用など）もあり、事務局電話をスマートフォンに機種変更することで承認された。機種や支払い料金プランについて今後も情報収集を続け、来年度予算での購入を準備する。

◆2022年1月16日 第109回認定カウンセラー会議◆

1 12月の事業報告

相談、普及啓発、人材育成各事業について報告を行った。

2 カウンセリングの現場での状況報告と課題について

ひまわりミーティングの運営マニュアルの再検討の必要性があること、相談事業におけるスーパービジョンの重要性について話し合った。

◆第11回認定カウンセラー研修◆

- ・2022年1月16日、電話相談実施要領・ヘルプラインかがわ服務規程・倫理基準・マニュアルについて確認を行った。

認定カウンセラー登録証の有効期限が2022年3月31日の方へのお知らせ

特定非営利活動法人グリーンワークかがわ認定カウンセラー資格認定規則の改定に伴い、資格有効期限が2年から5年に延長されます。現在、有効期限が2022年3月31日の登録証をお持ちの方は、経過措置として2027年3月31日まで延長されます。「資格認定規則変更にもなう資格更新申請の経過措置について」の書類が登録証明となりますので大切に保管してください。

資格認定規則変更にもなう資格更新申請の経過措置について

本年度第17回通常社員総会、第7号議案「認定カウンセラー資格認定規則の改定に関する事項」において、資格更新制度の改正案が承認されました。

改正の趣旨は、グリーンカウンセラー及びヘルプラインカウンセラーの資格制度を高度な専門業務が担保されたものにするため、資格保有期間を2年から5年へ延長すると共に期間内において必要ポイントを取得することを資格更新条件とするものです。ポイントについては資格認定委員会が年度内に周知を行うために指定作業を進めております。

本年度の資格更新対象者につきましては、経過措置として来年度以降の資格更新となるため、昨年2021年12月12日付で「資格認定規則変更にもなう資格更新申請の経過措置について」のお知らせを郵送しておりますので、ご確認ください。

2022年1月

認定特定非営利活動法人グリーンワークかがわ
資格認定委員長 上野美幸